

～ All for one, One for all. ～

光 の 家

LIGHT HOUSE WITH THE BLIND

視覚障害者総合福祉施設

東京光の家会報

— 180 号 —

2014 年 11 月 15 日発行

マタイによる福音書

第七章 一三～一四節

狭い門からはいれ。滅びに
いたる門は大きく、その道
は広い。そして、そこから
はいって行く者が多い。命
にいたる門は狭く、その道
は細い。そして、それを見
いだす者が少ない。



光バンド「愛のサウンドフェスティバル 2014」(たましんRISURUホール)

光の家愛のサウンド後援会役員の皆様と共に

会 報 五 言

一・人の生命の不思議さは、人の知能程度では量り難し。

一・ある事件に遭遇しても、ある者は間一髪で救われ、ある者は間一髪で命をおとす。これ永遠の謎か。

一・これは単に運・不運の事で片付けることはできない。

一・では、生命の不思議さはどう解釈すべきか？

一・生命の存在の不思議さと言うべきであろう。何か不思議な力が背後にあるような気がする。??。

岩の上の家「東京光の家」を想う

社会福祉法人 東京光の家 監事 白井富士夫



「東京光の家」、まさしく岩の上に建てられた家であるという感を深く覚えてなりません。岩の上の家とは聖書のマタイによる福音書で言われているイエスの言葉で、五章から始まる山上の垂訓と称されている後半の七章二四節と二五節に「わたしのこれらの言葉を聞いて行う者は皆、岩の上に自分の家を建てた賢い人に似ている。雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家を襲っても倒れなかった。岩を土台としていたからである。」と記されています。

この言葉は譬え話であり語弊があるかも知れませんが、人生訓とも言われています。家を建てる時には、土台が一番大切であり、しっかりした土台でないと建てた家は崩壊してしまふ。そこで人は生きるのになにを土台とするのかと。どのように物事を考え、判断して生活するのかと云う問いであります。私たちはそれぞれ自分の人生をどのように築いていくのか様々であり、考え方も違います。その人生を歩んで行くうちにいろいろな障害もあり迷路もありますが、迷路に踏み入れても、しっかりとした姿勢をもつてすれば必ずや其の道に帰る事が出来ると思われれます。私自身も迷路に陥った経験者の一人であります。イエスははっきりと言っ

ております。自分のこれらの言葉を聞いて行う者と。これらの言葉とは山上で話された諸々の話であります。それらを信じで行う事、岩とはイエスご自身をさしています。これはイエス・キリストへの「信仰」でありその信仰が土台であります。東京光の家は秋元梅吉先生が聖書を学び、信仰を与えられ、その信仰によって建てられたのは周知のとおりです。田中理事長も故ノゾミ先生も信仰を与えられ、又多くの職員・園生が与えられております。そして現在まで九〇有余年の光の家の歴史のなかで聖書の学び「毎日曜日の講話集会と職員・園生による週二回の集会」は欠かしたことがないと聞いております。この事は驚きでもあり、一人のキリスト者である私にとつては羨ましく覚えるものであります。

鳥辭がましい事を言うようですが、聖書にふれ「東京光の家」を知ったなら、私のようにイエスの譬えた話「岩の上の家」と心が一つとなるのではないのでしょうか。光の家で働く多くの職員が何時も真摯に愛に満たされて働いている姿と園生の喜びに溢れた姿を見るにつけ聞くにつけ感動しています。これは信仰による神様の恩恵に支えられている賜物と言っても過言ではないと思います。この長い間には幾多の艱難・辛苦も有ったでありましたが、信仰に基づいた確固たる信念による経営によって財政的にも精神的にも日本の有数の福祉施設となりました。現在の日本において政治的にも倫理・精神的にも荒廃をきたしている現状の中で「東京光の家」は世の光であり、明けの明星の如く益々輝きが増して行くでしょう。福祉事業は年々厳しい経営を余儀なくされて来ると伺っています。神様からの恩寵に感謝しつつ障害者や地域の為に貢献する施設として成長する事を祈り筆を置きます。

自衛消防活動審査会

東京光の家
Aチーム
Bチーム

見事優勝・準優勝！



練習の成果を発揮し優勝した A チーム
(左：和田職員、右：澤入職員)



審査に向かう準優勝の B チーム
(左：東坂職員、右：中道職員)

日野消防署による自衛消防活動審査会は、日野市内の事業所の自衛消防活動の技術と防災行動力の向上を目的に、毎年開催されています。東京光の家ではこの審査会に平成二年より毎年参加しており、職員の防災技術の向上につながっています。

今年度は九月一七日、万願寺中央グラウンドにおいて行われ、一六事業所一九隊が参加し、東京光の家からは二チームが「二号消火栓の部(二人操法)」に参加しました。両チームともに日々の業務の中から時間を作り、熱心に練習を重ねてきました。過去に審査会に参加経験のある先輩職員から激励やアドバイスを受けながら練習に励む光景は、東京光の家の夏の風物詩

ともなっています。



消防署より表彰状と記念の楯が授与されました
(田中理事長を囲んで)

本番当日は練習の成果が遺憾なく発揮され、Aチーム(澤入健二職員・和田悠暉職員)が見事優勝、Bチーム(東坂沙緒里職員・中道歩美職員)は準優勝をそれぞれ飾ることができました。初めての審査会参加で当初は緊張していた両チームですが、堂々と操法に取り組む様子は大変頼もしく感じられました。ここでも得た経験をこれからも防災活動に活かしてほしいと思います。

(防災活動委員 山田 裕基)

地域合同総合防災訓練

去る平成二六年一〇月二八



応援協定先(自治会等)の避難誘導の様子

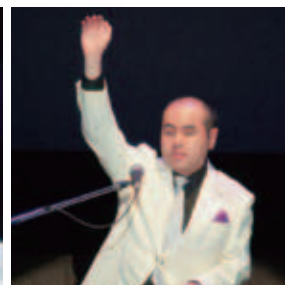
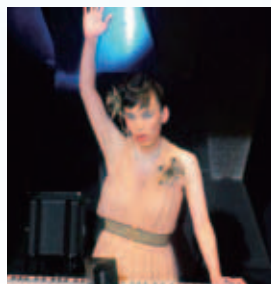
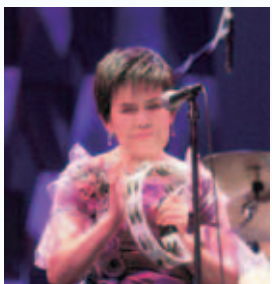
日、相互応援協定に基づく総合防災訓練が、旭が丘東公園において実施されました。東京光の家では平成一七年より近隣自治会や企業と災害時の応援協定を締結しており、毎年二回の合同訓練を行っています。災害時に備え、今後も地域の方々とともに綿密な協力関係を築けていければと思います。

愛と勇気のスタートライン

チャリティーコンサート
[愛のサウンドフェスティバル]

2014.9.13 Sat.
たましんRISURUホール
[立川市民会館大ホール]

正秘バンド から 光バンドへ





正秋バンドから「光バンド」へ

新たな出発点からの船出

今年度の「愛のサウンドフェスティバル」は九年振りの会場となる『たましん RISSURU ホール（立川市民会館）』に於きまして、広い客席を埋め尽くす大勢のお客様をお迎えして開催することが叶いました。

昨年度結成二五周年を迎え、足掛け四半世紀に亘る歩みを重ねた正秋バンドは、今年度より従

前のメンバーに新たに二名を加え、総勢二名の体制となった事を機に、意気込み新たに更なる飛躍へ向けてのスタートラインに立つべく、その名称を「光バンド」へと改称し、今回が新たなバンド名称

による記念すべき初めてのチャリティーコンサートとなりました。

音楽会では、以前からのメンバーは元より、新たに加わったメンバーも日頃の練習成果を遺憾なく発揮し、古くからのメンバーは一層深みを増した歌

唱や演奏を、また、新たなメンバーは新鮮味溢れる若々しさを披露させて頂けたものと存じます。

メンバー全員が幾重の障害を背負いながらも、自らが積極的に社会参加する事による地域社会の皆様方との共生をめざし、その一環として、本音楽会では福祉協力券売上の一部を開催地の社会福祉協議会等へ贈呈させて頂いております。

「光バンド」はどんなに困難な時でも常に前を向いて歩みを進めます。「光バンド」は障害や試練に負けない強さを備えています。「光バンド」は何時でも真剣で誠実な精一杯の努力を惜しみません。

「光バンド」がこの先も皆様へ弛まず感動と勇気をお届け出来そうですよう、どうぞこれからも引き続き変わらぬご支援を賜りたく何卒宜しくお願い申し上げます。

（文化活動委員 川崎 啓三）

第三七回 チャリティティーバザー

雨中での開催を終えて

去る、一〇月二三日(月)に、

第三七回目のチャリティティーバザーが開催されました。今年の光の家のバザーは、台風接近の予報により、前日から東公園と施設内の二カ所での開催を考慮しながらの準備となりました。

当日の朝より、雨が降り始め、売場を施設内外での二カ所での開催となりました。それでも、外部からも多くの方々の来場があり、「光の家のバザーを毎年楽しみにしています。」

「楽しかった。」
等々のお言葉を頂き、感謝の気持ちで一杯でした。

天候は、我々にはどうすることもできませんが、今回も一〇〇名以上のボランティアや地域の方々、保護者の皆さまの協力と支えのおかげで、光の家のバザーらしく、無事に終えることができました。心より感謝申し上げます。

(バザー委員長 阿部 哲也)



大勢のお客で賑わう屋内売場



玉こんにゃくいかがですかあ〜(保護者コーナー)

第4回

光の家オープンハウス 「見えない人のくらし」

九月二〇日(土)、今回で第四回目となる『光の家オープンハウス』を開催しました。光の家のことや視覚障害を持つ方がどのような暮らしをしているのか、また、アイマスクをしてみてもどのような感覚を使っているのかなどを体験出来るイベントです。

昨年好評だった歩行体験に加え、今年は新たに作業体験を



白杖ってどう使うんだろう？



ジュースを飲むのも大変!!

取り入れられました。普段なかなか体験出来ないこととあって、来場者からは驚きと関心、そしてなにより楽しいというお声をたくさん頂きました。また、地域の中学生がボランティアに参加して下さり、明るく元気な声と素敵な笑顔で来場者の案内をしてくれました。このイベントを通して、より多くの地域の方が光の家に来て頂くことで、地域の方々と光の家との距離を縮めていく、これからの地域貢献のひとつの形だと感じました。

(地域貢献活動室 中野 悠花)

研修を通じた国際交流

東京光の家では毎年、全国社会福祉協議会が実施する「アジア社会福祉従事者研修」の実習生を受け入れています。今年は七月一七日から八月二九日まで台湾出身の王思芸（ワンシーユン）さんが来園されました。

研修では各施設の日課に参加し、生活介護・就労作業・各種訓練等の様々な支援を体験して頂きました。王さんは明るく、日本語が上手なため、利用者・職

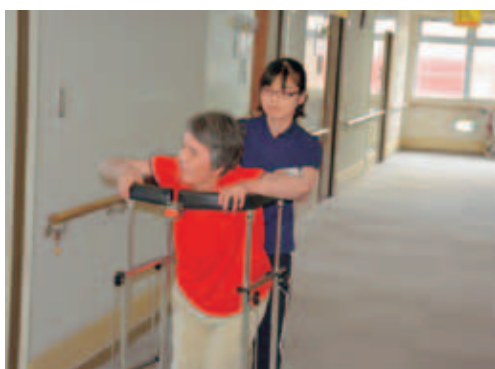
員とのコミュニケーションもスムーズで、素晴らしい国際交流の機会となりました。研修の最後には、台湾の社会福祉と王さんの勤務する地域福祉センターについてご紹介頂きました。

研修終了後も、光バンドのコンサートに足を運んでくださった王さん。日本での研修が実り多きものとなるよう、皆でお祈りしています。

（総務課 岩崎 幸二）



利用者の皆さんと一緒に作業をしました



歩行介助の実習をする王さん

光の家鍼灸 マッサージホーム

真心をこめた施術で、皆さまの健康に奉仕させて頂きます。

受付時間（電話予約制）
午前九時～午後七時半

定休日 毎週水曜日

電話

〇四二（五八二）七二〇九

料金

はり 四、〇〇〇円

マッサージ 二、五〇〇円

三〇分 三、八〇〇円

七〇分 五、〇〇〇円

一〇〇分



※ 毎月 1 日はサービスデー、500 円割引

寄付者名簿

平成二六年八月一日
～ 一〇月三二日

角田礼次郎様

八〇円切手 二枚
六〇円切手 四枚

河村正様

五〇円切手 二枚
五〇円はがき 四枚

井川幸雄様

米 五十四kg
梨 一〇kg

松田功様

梨 八〇房
米 四十五kg

浅石常勝様

米 三〇kg
りんごジュース (二八〇g) 一〇〇パック

島田英樹様

梨 一五kg
コーヒーギフトセット

安積義治様

梨 八箱
四〇kg

綾木潔様

梨 二〇個
とちぎライトセンター様

奥田毅様

ギヤツジベッド 一台

高瀬鈴子様

干しいたけ 一、二kg

保田勲様

米 五〇、五kg
キャベツ 二五kg

折茂冬貴様

じゃがいも 一〇kg

村形寛樹様

NPO 法人城山めいぶる

理事長 平栗文夫様

玄米 三〇kg
テレビボード 一台

石塚康人様

ラ・フランス 一、五kg

西塚哲様

柿 一〇kg

阿久津隆様

※ 紙面の写真は、すべてご本人の許可を得て掲載させて頂きました。

海外研修

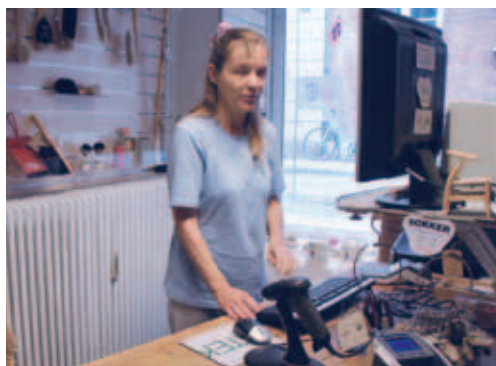
ソウェルクラブ海外研修

すべてに感動



九月五日から九月一三日までの八日間、ソウェルクラブで実施している海外研修（イギリス・デンマーク障害福祉コース）に参加させていただきました。

イギリス・デンマークで共に驚いた事は、高税率であることです。特にデンマークでは、給料の四〇％～四五％を税金として支払っており、その代りに、医療、教育、福祉が無料という事でした。



国リハを卒業し、地域でお店を営んでいる視覚障害者

私がこの研修で特に注目していたのは、デンマークにある国立の視覚障害者のリハビリセンターです。視覚障害者の支援に携わっている私にとって、海外の視覚障害者の施設はとても興味深く見学させていただきました。訓練の内容等は日本で行われていることと大きな違いはないですが、石畳の多い街の様子等、実際にその国を感じる事で、改めてそれぞれの風土に



視覚障害者の国リハセンターでの訓練風景

あった福祉活動が展開されていることを感じました。

また、今回の研修では福祉事情の他にも、今まで見た事のない海外の風景や食事に感動し、海外研修で体験したことすべてが、勉強になり、また自分の視野が広がった研修でした。お忙しい中、海外研修に参加させていただき、本当に感謝します。今回学んだことを、今後の利用者支援に活かして行きたいと思っています。

（光の家栄光園 就労支援課

主任 浅井 紗和）



ソウェルクラブ海外研修参加者

ゝあとがきゝ

今月号は白井監事よりご寄稿を頂き、東京光の家が「信仰」を土台にした「岩の上の家」と表現されました。そして、職員が愛に満たされ働いている姿と園生の喜びに溢れた姿に感動したという大変、ありがたいお言葉を頂き、われわれ一同も大いに励まされた次第です。

（常務理事 石渡 健太郎）



デンマークにて（中央：浅井主任）

発

行 〒一九一〇〇六五

東京都日野市旭が丘一七ー一七
社会福祉法人 東京光の家

電話 〇四二（五八二）二三四〇

FAX 〇四二（五八二）九五六八